

令和 3 年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	36	学校名	茨城県立銚田第二高等学校				課程	全日制		学校長名	平山 茂男											
教頭名	教頭 大信 隆			教頭 栗田 武志			事務長名			小林 武男												
教職員数	教諭	5	養護教諭	5	1	常勤講師	9	非常勤講師	6	8	実習教諭、実習講師、実習助手、ALT	8	事務職員	5	技術職員等	12	計	96				
生徒数	小学科	1年		2年		3年		4年		合計		合計										
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	クラス数								
	総合学科	8	9	6	8	1	2	4	1	0	0	1	0	4	2	5	7	3	2	4	1	6
	農業科	9	2	1	3	2	9	1	0	4	3	1	4	3	1	4	3					
食品技術科	1	7	2	1	1	1	2	0	1	5	2	1	4	3	6	2	3					

2 目指す学校像

課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学びと、将来を見据えた系統的なキャリア教育を充実させ、一人一人の進路希望の実現を図るとともに、地域社会との連携を推進し、地域振興に貢献するリーダーとなる人材を育成する、地域に信頼される学校。

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
「農業科」「食品技術科」「総合学科」の特色を生かした魅力ある学校づくり	個々の進路希望に応じたモデルプランや各科、各系列での学びを充実させ特色をもたせたカリキュラムを用意している。また、生徒一人一人の進路実現に対応するため、学力向上を図りキャリア教育を充実していく必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・各科、各系列の魅力高めるカリキュラムを構築する。 ・学習習慣の確立及び基礎学力を身につける教育活動を行う。 ・キャリア教育を意識した教育活動を展開する。 ・地域と連携した多様な活動を展開する。
生徒一人一人の進路希望を実現する指導 (進路指導)	進学者の中には一般入試まで努力し複数校の合格を手にした生徒たちがいる一方、未定者もいることが課題である。面談の充実などを行い、進路意識を高め、「農業科」及び「食品技術科」をはじめ、「総合学科」の特徴である様々な進路希望に対応できるように指導体制を充実させたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・個別面談や進路別指導を充実させる。 ・様々な体験や資格取得を経験させ、進路選択の幅を広げる。 ・進学に向け、家庭学習や課外学習の充実を図る。 ・就職先の開拓など、粘り強い就職指導を行う。
基本的な生活習慣と規範意識の定着を図る指導 (生徒指導)	平成 25 年度から「遅刻ゼロ運動」を全校体制で実施してきた。遅刻者数の大きな変化はないが、段階的な指導により、生徒指導部指導の対象者は少数となっている。服装・頭髮の著しい乱れは見られなくなっている。規則正しい生活習慣の定着、規範意識を高めるためにも遅刻ゼロ運動を令和 3 年度も継続する。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で判断して、基本的な生活習慣が確立できるように自己指導能力の向上を図る。 ・SNS 等での誹謗中傷や迷惑行為に迅速に対応できる体制を整える。 ・自転車や原付バイク運転の安全指導を充実させる。
校内における適切な働き方改革の推進	平日及び週休日における部活動指導、課外指導等により、教職員の長時間に及ぶ時間外勤務が発生している。	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の業務を見直し、効率化を図ることにより、時間外勤務の縮減を図る。

別紙様式 1

4 中期的目標

<ul style="list-style-type: none"> ・「農業科」、「食品技術科」、「総合学科」の特色を生かし、生徒一人一人の能力を引き出し、個性の伸長を図る教育を行う。 ・生徒一人一人の基本的な生活習慣を確立し、自信のある行動をとれる人材を育成する。 ・生徒一人一人の進路希望に応じた指導体制を確立し、生徒全員の進路実現を目指す。 ・地域と連携して地域社会の信頼に立脚し、将来にわたり学校を充実・発展させる。 ・教職員一人一人の業務の効率化を図り、時間外勤務の縮減に努める。

5 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
1 「農業科」、「食品技術科」、「総合学科」の特色を生かした学校づくりの推進	① 主体的・対話的で深い学びを可能とする魅力ある教育課程の編成を行う。コンピュータやタブレットを活用し、学びの進め方を工夫する。 ② 進路希望を実現するため、学習意欲を喚起し、学力向上に向けた活動を行う。 ③ 本校の特色や生徒活躍の情報を、積極的に中学生や地域に発信し、より多くの受検生を確保する。
2 生徒一人一人の進路希望を実現するための生徒との「関わり」の深化	④ 3年間を見通した進路に係るガイダンス、面談を組織的に行う。 ⑤ キャリア教育を推進する教育活動の充実を図る。 ⑥ 各種の就業体験活動や資格取得を積極的に推進し、就職・進学のための機会を拡大を図る。
3 基本的な生活習慣と規範意識の定着、及び家庭・関係機関との連携の推進	⑦ 自己指導能力を育成し、基本的な生活習慣と規範意識を定着させる。 ⑧ 自転車・バイクの安全指導や、いじめ・SNS等での誹謗中傷の防止・早期発見に努める。 ⑨ 家庭・関係機関との連携に努め、問題行動の未然防止及び拡大を防ぐとともに、学校への理解と信頼を深める。
4 特別活動・部活動等とおとした人格の育成	⑩ 生徒会活動や学校行事の企画を工夫し、生徒の人間関係能力を高める。 ⑪ 部活動等を活性化し、礼節や規則を大切にすることを育む。 ⑫ ボランティア活動や地域連携活動等への積極的な参加を促し、社会性の確立に努める。 ⑬ 「キャリア・パスポート」を活用し、生徒の学びに向かう力の育成、キャリア形成を図る。
5 安全・安心な教育環境の整備と自己健康管理能力の育成	⑭ 定期的な「安全点検」や清掃活動の充実により、安全・安心な教育環境の整備に努める。 ⑮ 定期的な啓発活動等により、生徒及び教職員の緊急時の対応能力を高めるとともに、自己健康管理能力を高める。
6 校内における適切な働き方改革の推進	⑯ 教職員一人一人の業務を見直し、効率化を図ることにより、負担軽減に努める。 ⑰ 1ヶ月あたり45時間以内となるよう、各教職員の時間外勤務の縮減を目指す。